

# 労働教育の諸問題への現代的アプローチ

ニコライ・ワシーリエビッチ・コトリヤーホフ

横山悦生訳

変化しつつある生活の社会的・経済的諸条件においては、若い世代の労働教育の諸問題への注目が国家の側からも教育行政の側からも弱くなる傾向がかなり顕著に現れた。学校へ物質的な援助を提供することを事実上停止していることが、教育実習場の現状や、そこが所有している機械の現状にきわめて悪い影響を与えている。長年の実践によって試された組織された生徒の社会的有用労働の形態が消滅しつつある。例えば、生徒の生産班、学校林、労働と休暇の夏期キャンプなどが消滅しつつある。多くの学校共同生産コンビナートが閉鎖される恐れがある。

子どもたちは事実上自分の手で何もつukれないということ、本当の価値、モノにどれだけの労働が込められているかというモノの本当の価値に関する観念がないということをよく耳にするようになった。さらに、子どもに周囲の現実のモノや対象についての事実の観念についての形成上の諸問題がかなり切実になりつつある。問題は次の点にある。テレビ、特にアニメやコンピュータゲームは、周囲の現実のモノや対象について、表面的で、不正確で、間違った観念を常につくり出すことを促している。現実の世界と「アニメ」や「バーチャル」の現実の世界とは子どもの意識のなかで混同してしまっている。

一般に市場経済の法則に沿って生活しようとしている社会では、みんなのための集団的労働への参加という方向から、自分自身の活動で個々人のために豊かなくらしを得る方向への転換が起こりつつある。この際、市場経済の状況での効率的な労働に一人一人を方向づけなければならないという、労働教育や「労働活動に関する教養」の一般的な方向づけと内容を大幅に訂正することに関連した本質的な問題が生まれる。

私の理解では、「労働教育」という用語は精神的・道徳的、人格的特質全体を含んでいる。また、それはさまざまな種類の労働活動に必要な知識・能力・技能も含んでいる。それに対して、この「労働活動に関する教養」という概念は、様々な種類の労働における活動のプロセスをよりよく行うことを可能にするところの、人間の知的及び実践的知識・能力・技能の形成のレベルを反映している。その高度な水準は、労働の科学的組織化の一般的基礎や、なによりも以下に示すような能力の獲得を前提としている。

- ・予測される結果を考慮して自らの活動の目的と課題を明確に定めること
- ・設定した目的を達成する実際の計画を作成すること
- ・労働過程に必要な物質的手段を用意すること、例えば設備、道具、材料等々
- ・作業場所を組織すること
- ・望まれる結果を達成するという目的で、力と手段についても、時間についても最小限必要なものだけを使用するように、力と手段を合理的に分配すること
- ・自らの作業の努力の過程と結果を分析すること、必要な訂正をすること

積極的で道徳的な方向づけをもっている人格の中心となる特徴は、労働愛である。それは、知的な活動も肉体的な活動も両方とも含むところの、積極的で自主的な労働活動への絶えざる志向である。それゆえ、労働愛を形成し、発達させることは、人間の形成のすべての年齢段階において労働教育の中心的課題である。ここで、自主的な労働活動、子どもの力にふさわしい活動への絶えざる習慣づけが主要な手段である。

対応する態度のシステムを生徒に形成すること、すなわち生まれつつある欲求や志向を満足させるところの唯一の道徳的手段としてのあらゆる種類の地道な労働への肯定的態度、労働的生活様式への肯定的態度、すなわち労働の対象物と道具を合理的に大切にすること、労働活動の過程で改造した環境や

自然を合理的に大切にすることを生徒に形成することは、この中心的な課題と切り離しがたく結びついている。全体としてこれらすべては、人格の全体的で道徳的な確立を促進するように方向づけられている。

労働教育の次に重要な課題は、子どもに積極性、自主性、そして自分の力を発揮するに値する分野を自分で見出す能力をできる限り発達させることである。現代的状況における受動性、主体性のなさは個人的な生活を挫折へと導く。積極性や自主性の発達には子どもが教育や生活上の課題を自分で解決するような状況をつくるような教育過程へ活動的アプローチを利用することを無条件に要求している。積極性や自主性といったような人格的資質の形成と、発生している教育的課題や生活的課題の標準的でない、独自の解決にあらわれる創造力や能力の発達過程とは切り離しがたく結びついている。

現代的な条件における生活にとって重要であるのは人格の適応能力である。絶えず変化する社会的、経済的条件は、働く人々の機能の柔軟性や稼働性、起こりうる変化を予想する能力、それに応じて活動分野を変え、心理学的に再編成する能力を要求する。

生徒を将来において公正な競争に参加させるように方向づけること、それに対応した競争能力を発達させることは、市場経済の条件のもとではきわめて必要なことである。

知的な労働はいまでもなく肉体労働も含めて、あらゆる労働は労働活動の具体的な分野において一定の系統的な知識にもとづいているという事実は明らかである。それゆえ、成長中の世代に対する労働教育の第3番目の一般的な課題は、その後続く職業的準備とさらに後の独立した労働生活に必要な知識の体系を彼らに獲得させることである。ここでは、さまざまな種類の生産や人間の労働活動の領域に特徴的な、もっとも一般的な生物的、物理的、化学的諸過程が中心的な要素となりうる。そして、それらは天然資源、自然材料の再生と加工、エネルギーの獲得と変換、情報の伝達と加工、さまざまな植物の栽培技術と結びついている。

労働教育の根本的な課題の一つは、子どもに一般的な労働能力と技能を育てることである。その際、個々の子どもがすでに持っている素質を発達させることがかなり重要である。問題は以下の点にある。すなわち時宜にかなって発達させられていない素質は、その後においてはほとんどの場合完全には発達させることができない。なぜならば、自然はその時期に求められていないものを完全に再生しない。それゆえ、手、目、空間感覚の発達、運動の調整と柔軟性、触感と温度感の受容器官の発達、効果的で、緊張した労働活動に必要な肉体的資質の発達が同時的に伴うことが無条件に重要である。また、肉体的、知的労働の一定の種類への子どものもっている傾向性を見つけ出し、さらに発達させることが重要である。

総合技術教育の思想の事実上の拒否にもかかわらず、最も多く使われる材料(学校においては、紙、厚紙、木、金属、布、自然の素材等)を加工したり、広範に普及している道具(金槌、のこぎり、鉋、ナイフ、ヤスリ、はさみ、針等)を使う、実践的な能力や技能を子どもに育てることは妥当なことだと認めなければならない。それらの能力や技能は、ほとんどすべての人間にとって、その後続く職業教育にも日常生活にも必要である。

労働教育の現代的な概念において、新しい情報技術の獲得は特別な位置をしめる。というのは、市場経済や厳しい競争の条件のもとでは必要な情報を迅速に獲得し、伝達(普及)することが労働活動の成功の決定的な条件になることが多いからである。一定の商品またはサービスの需要の調査研究、商品の生産の技術とサービスの提供、広告や販売の方法と可能性はそれに応じた情報なしには効果的ではありえない。

こうして、労働教育の全過程には、個人における労働の教養の形成も含めて、以下の点に焦点化されなければならない。

- ・労働愛の教育、積極性、自主性、主体性、創造的能力の発達
- ・地道な労働、働く人、改造される自然、道具、労働対象に対する肯定的態度の教育
- ・目的を合理的にたてること、予測、計画化、労働活動の最適な組織、その結果の評価とその後における結果の考慮といったようなことに集約される一般的な労働に関する教養を教育すること

- ・公正な競争への参加を準備すること、急速に変化しつつある社会的、経済的条件に対応した適応能力を発達させること
- ・一人一人の生徒にその後続く職業教育及び自主的な労働活動を始めるために必要な基礎的な知識の体系を獲得させること
- ・素質や性癖やさまざまな種類の労働活動に対する能力を適時に見つけ出し、発達させ、それに続けて職業オリエンテーションを行うこと
- ・さまざまな種類の労働における一般的な労働能力と技能、及び具体的な実践的能力と技能を獲得させること
- ・コンピュータに関する読み書き能力と新しい情報技術を獲得させること
- ・市場経済の条件における効率的な労働活動に必要な能力、商品やサービスの要求を明らかにする能力、それらの生産を組織し、提供することができる能力を形成すること

以上に列挙した諸課題の大部分は、過去において解決されつつあったが、市場経済への移行が労働教育の課題の階層性と構造についての強調点の変更と再検討を要請していることは明白である。

訳者より

本論文は、『学校と生産』誌(1999年2月号)に発表された、コトリヤーホフ教授(ビヤトカ国立教育大学教育学講座主任)の論文の邦訳である。同誌はこの号において「労働準備(ТРУДОВАЯ ПОДГОТОВКА)」を特集しており、本論文はその巻頭論文である。なお、コトリヤーホフ教授は、「РОССИЙСКАЯ ПЕДАГОГИЧЕСКАЯ ЭНЦИКЛОПЕДИЯ II」(『ロシア教育学百科辞典』第2巻、1999年)において「労働教育」の項を執筆しており、この分野でのロシアの研究の第一人者とみなしてさしつかえないと思われる。